

第4回「大阪がめざす SDGs 先進都市の姿」 検討ワーキンググループ【書面開催】 概要（メモ）

■ 日時：令和元年8月26日（月） ※ 書面開催

■ 有識者：（敬称略・所属五十音順）

- ・草郷 孝好 関西大学 社会学部 教授
- ・西野 恭子 国際協力機構（JICA）関西センター 所長
- ・村上 芽 株式会社日本総合研究所 シニアマネージャー
- ・川久保 俊 法政大学 デザイン工学部 准教授
- ・羽根田 みやび 吉本興業ホールディングス株式会社 SDGs 推進本部 本部長

■ 次第：大阪がめざす SDGs 先進都市の姿【中間整理案】について

■ 有識者からの主な意見

Op5「基本的な考え方」に関して

- ・SDGs の取組みは、府民一人ひとりの豊かさや安全安心につながる基盤となるだけでなく、大阪全体がそういった社会へと発展するための基盤であるという視点を加えるべき。

Op9「有識者ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見」に関して

- ・これまでの議論を踏まえ、大阪の様々なステークホルダーが SDGs に向けて意識し、行動することが重要という考え方も明示すべき。
- ・「行政がめざすゴールと府民や企業の関心が高いゴール、それぞれが同じ方向を示せると良い」という表現は少しわかり難い。府民や企業の声をしっかり把握するという考え方で重複しているのではないか。
- ・これまでの議論を踏まえ、SDGs 先進都市として、府民の声を拾い上げることはもちろん、それを活かし、変革につなげることが重要という視点を加えるべき。

Op10「大阪がめざす SDGs 先進都市の姿」の明確化に向けた取りまとめの全体像」に関して

- ・今後、様々なステークホルダーと対話を重ねるにあたり、単に「関心が深いゴール」を把握するというだけでなく、大阪が SDGs 社会を実現するために最重要なゴールをどう考えるか把握していくということではないのか。
- ・次の世代を担う子どもの声をしっかりと吸い上げる仕組み（子どもの参加）を期待。その際、将来に対し、自ら意見を示すことができる子どもだけでなく、声を出しにくい状況にある子どもたちを含めて検討いただきたい。
- ・環境分野では広域的な取組みが重要となる。府民や府内企業、府内市町村だけでなく、近隣府県も巻き込んで取組みを進めていくことを期待したい。

Op11「SDGs17 ゴールの到達点（個別ゴールの評価）」に関して

- ・国内評価について、今後、自治体 SDGs 推進のためのローカル指標検討 WG（事務局：内閣府 地方創生推進室）が提示した「地方創生 SDGs ローカル指標」を分析に活用してはどうか。

Op13「SDGs17ゴールの到達点(一定のまとめ)」に関して

- ・全世界的に見ると、大きな課題として、「ゴール 13 気候変動」と「ゴール 1 貧困」や「ゴール 10 平等」に関連する格差拡大といった問題を認識する必要。
- ・日本においては、「ゴール 5 ジェンダー」の平等で大きく出遅れているということも認識する必要がある。また、家事労働や賃金格差等に関して意見を持っている人は多い。しっかりと府民の声を聞きながら重点ゴールを整理してほしい。個別指標の評価とは別に、女性が活躍できるまちづくりに大胆に取り組むという観点も、SDGs 先進都市の1つの考え方ではないか。

以上